

よいケアをするためには、知識、技術、そして、学び続ける組織をつくること
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 修士1年 中田和宏

。

身体拘束が当たり前になっていた時代に、身体拘束を辞めようという田中様の強い意志による取り組みについて、とても感動しました。

田中様だけではなく他職員も身体拘束はおかしいのではないかと感じていたと思いますが病院の暗黙ルールがあり、それを打破する精神力もなかったと想像します。

人間は環境の奴隷であり、環境によって麻痺してしまっており、身体拘束が悪いと思っていない人も多かったと思います。

田中様の取り組みで、患者に変化が見えてきたという話がありました。

患者にとって田中様は希望であり、他職員も希望であったと思います。身体拘束は職員側の都合であり、身体拘束はゼロを目指さないといけないと思います。

身体拘束をさせないためには、よいケアをすることが大切であり、よいケアを本気で目指していたら身体拘束は起きません。どうやったら身体拘束せず、よいケアができるのか多職種で話し合い実践していく。

実践してもすぐには結果に繋がらないと思うので辛抱強くケアしていくことが大切だと思います。よいケアをするためには知識、技術が必要であり学び続ける組織をつくることが重要です。動画でケアしている様子を撮って、患者の反応などみることも学びになると思いました。

今回講義で学んだことはケア次第で変わるということです。

その方の尊厳を守るためにどうすればよいのか考え、一人一人の患者に向き合う姿勢の大切さを学びました。

ありがとうございました。